

2023. 6. 30

JSCE 国際化実践小委員会 教育WG  
活動報告

1. WG 設立趣旨

「海外事業の大変さと面白さを伝えたい」—これがWG発足の動機である。本小委員会唯一の外向き活動として「グローバルエンジニアへの道」と題した講座を企画した。対象は、海外に興味を持つ若手技術者のみならず、第二のエンジニア人生を海外でと考えているシニア、海外進出は「どうせ」だめだと思っている経営陣を考えた。

活動メンバーは、渡辺一人であった。

2. 活動状況

講座は全 13 回。最終回を除き、オンラインで行った（最終回は、受講生の希望によりハイブリッドで実施）。受講生は事前に配布されたプレゼンテーションを視聴し、講義当日にオンライン上でグループ討議を行う。自分の考えを「話し」、相手の話を「聞く」ことで学びを深めるべく企画したが、この点は成功したとは言い難い。

表一1に講座プログラムおよび各会の参加者数を示す。受講生は 22 名（社会人 14 名、学生 8 名）であった。

別紙一1に、受講生からのアンケート結果を社会人と学生に分けて掲載する。

3. 今後の活動

土木学会活動としては継続しない。

(文責 渡辺泰充)

## 別紙—1 アンケート結果

### (1) 社会人

- 日本建設業界の海外比率が他国よりも低いということもよくわかった。が、日本がリスクを負って海外進出をする必要があるのかという疑問もおきた
- 講師のキャリア形成（海外での経験や資格）を見て、グローバルに活躍されるエンジニアの貪欲な仕事への姿勢を知ることが出来た
- 企業が優秀なエンジニアの確保とグローバル化を行うには、外国人技術者から選ばれる環境作りが必要
- 日本＝先進国という印象かつ日本が施すという立場で海外展開を語っている参加者が思ったよりも多くて驚いた。私はどの環境でも他者へのリスペクトを忘れずに、業務に取り組みたい
- 海外で仕事をするものの意味に対する、チームの方の意見が参考になった。
- 個人的には講義後の自由討論でやる気のある人だけが残る生身の質疑応答が楽しく、今回の講義も有難かった
- 改めて一流のエンジニアとは何か、そして一生懸命仕事に取り組む姿勢の大切さを痛感した
- 問題が発生した際の、施工管理コンサルおよび技術者としてのあるべき姿、物事の考え方・進め方を学ぶことができた。すごく実践的な内容でとても有意義な時間となった
- 発展途上国の人々が真に何を必要としているのかを見極めることが大切であり、単に富める国が持ち貧しき国が持たざる物を与えても役には立たない
- 国内での売上げ減少を埋める目的で海外に向かっているのと異なり、米国を個別の建設市場と捉え、同国市場獲得のための適切な活動を続けている。組織として確固たる方針を持って長期的に取り組んだ結果が米国で地場ゼネコンと認知されるに至っている
- 講師の留学先決定時や留学後の考え方を伺い、自分の意識の持ち方についてよく考えてみる時間が必要だと感じた
- 自分の10年後の将来像を具体的に考える良い機会であった
- （推進工法は）国内市場の縮小に直面しており、保有する技術と機械を海外で継続的に活用するための課題は（吊橋と）共通している

### (2) 学生

- 海外事業には興味があり、講義へ応募したものの中々授業との兼ね合いが難しく、何回か参加できないうちに顔を出しづらく感じてしまいました。次年度こそは、授業も少なくなるためぜひ、もう一度チャレンジさせていただきたいです。
- できるのであれば、講義の録画視聴→対面での受講を希望いたします。  
講義内容も非常に興味深かったのですが、みなさんの将来のビジョンについても

興味がありました。同じグローバルエンジニアを志す仲間として、受講生同士の交流がより活発になれば良いなと思いました。そのためにも、対面で行うことに意味があると思いました。多種多様な授業と様々な受講生との交流の中で自身の視野が広げられたと思います。このような取り組みが続いてほしいと感じました。

■海外での契約に関する動画を視聴したのですが、自分の勉強不足で、ほとんど内容を理解することができず、それ以降の動画を溜めてしまう形となり、消化することができなく、だんだんと講義に参加することができなくなってしまいました。大変申し訳ございません。

■オンライン討議に関して日程が合わず参加する事ができませんでしたが、録画動画の中での講師の方々の言葉や考えに触れ、学ぶ事で今後土木技術者としてのキャリアプランを形成する事に繋がりました。

■実際に社会に出て働いている方々と意見を交わすことのできる貴重な機会でした。自分の都合でその機会を最大限生かすことができなかつたのが心残りです。今後、学生を交えたこのようなイベントが開催される際には、積極的かつ継続的にイベントに参加したいです。また、将来土木に携わることを考えている身として、土木業界で実際に働いている先人の皆様の知識や考え方を吸収していきたいと考えています。

以上